

配管工の魅力知って

帯広空調衛生協初の学生現場体験



協会員の指導を受けて、
施工体験を行う生徒ら

帯広空調衛生工事業協会（西藤博行会長、19社）は20日、帯広工業高校で、同校電子機械科の2年生を対象に業界説明会を開き、配管設備の施工を体験してもらった。これまで現場見学会は行ってきたが、実際の業務内容を手ほどきする場を設けるのは初めて。仕事のやりがいを知ってもらい、人材確保につなげるのが目的だ。

同校電子機械科の設備システムコースは、地域からの要望を受けて1997年に開設されている。開設経緯を踏まえ、協会では仕事内容を知ってもらうため、同校1年生を招いた現場見学会を行ってきた。一方、地元の協会加盟社

に就職する生徒は少なく、進路選択を控えた2年生を対象に、仕事内容を体験してもらおうと新たに説明会を企画した。協会側は「災害が多発する中、担い手確保は地域を守ることに必要」とする。

この日は生徒39人が参加し、協会技術委員会の9人が説明に当たった。

業界の仕事に関する講話に続き、生徒たちは実際に図面を書く作業を体験。午後からは生徒がグループに分かれ、図面に基づきデモンストレーション用のパネルに配管を施工した。生徒はスケールで取り付け位置を決める「墨出し」から、実際に蛇口を取り付ける作業までを行った。

水本楓也さん（16）は「教えてもらいながら作業ができ、仕事のイメージを持つことができた。就職の選択肢として、こういった業界も考えたい」と話した。

ガイドランスは次年度以降も継続する方針。西藤会長は「仕事のやりがいを知ってもらい、業界に入る人が増えてほしい」と話していた。（中島佑斗）